

千葉県立博物館の事業に係る有識者意見交換会 自己評価票

達成度(数値達成度のめやす)		自己評価	総合評価
達成	目標値≥100%	4	A
ほぼ達成	目標値≥80%	3	B
やや不十分	目標値≥50%	2	C
不十分	目標値<50%	1	D

満足度欄の達成度		自己評価
達成	達成値≥75%	4
ほぼ達成	達成値≥65%	3
やや不十分	達成値≥50%	2
不十分	達成値<50%	1

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)	値の説明				数値	
I	収蔵資料の整理・保存有効活用・調査研究	収蔵資料	1	博物館資料の受入等	28年度実績	2点	3	B	新たに受け入れた資料2点、所有者の申し出により返却した資料8点。 新たな入力はないが、返却した資料8点については、データ削除の作業を実施した。	
					館設定の目標	3点				
			2	資料の情報化・公開実績	28年度実績	/	/			
					前年度実績	/				
			3		28年度実績					
					前年度実績					
		調査研究	4	館外貸出(外部機関等展示等)	28年度実績	3件	4			A
					要望のあった件数	3件				
			5	館内利用(学術調査等)	28年度実績	8件	4			
					要望のあった件数	8件				
			6	著作物資料への利用(出版物掲載等)	28年度実績	25件	4			
					要望のあった件数	25件				
7	調査事案件数	件数	28年度実績	8件	4					
			前年度実績	8件						
	8	共同調査事案件数	件数	28年度実績	/	/				
				前年度実績	/					
	9	研究成果の公開状況	論文研究報告	28年度実績	6件	4				
				前年度実績	6件					
大項目 I の総合評価(A~D)							A			
博物館コメント	一般の方が博物館の資料を活用するためには、ホームページにある収蔵資料検索や過去の展示図録等を参考にする場合が多い。資料のデジタル化は、他の事業等との兼ね合いで余裕がなく近年滞っているが、少しずつでも入力して増やせるような方策を考えていきたい。									
有識者コメント	資料のデジタル化については、少しずつでも進めていてもらいたい。評価の方法については、前年度に対して今年度はこれくらいやったというやり方ではなく、最初に目標を決めてそれに対してどのくらい達成できたかを評価するようにした方がよい。									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)	値の説明				数値	
Ⅱ	入館者数と来館者の満足度	来館状況	1	博物館	入館者数	28年度実績	104,135人	3	天候不順による影響が大きかった。	
						前年度実績	108,572人			
			2	つながる 川と海と人 ~あそぶ・親しむ・守る~	入館者数	28年度実績	12,790人	3		
		前年度実績				13,665人				
		3	企画展(事業名)	入館者数	〇〇年度実績					
					館設定〇〇年度の目標					
		展示の充実	4	常設展示	更新回数	28年度実績	3回	4		A
						前年度実績	3回			
			5	つながる 川と海と人 ~あそぶ・親しむ・守る~	実施回数	28年度実績	1回	4		
前年度実績	1回									
6	パネル展・昔のくらし展・コーナー展等	実施回数	28年度実績	5回	4					
			前年度実績	5回						
総合的な満足度	7	博物館	アンケート満足度「とっても良かった」+「良かった」の割合	28年度実績	86%	4				
				8	つながる 川と海と人 ~あそぶ・親しむ・守る~		28年度実績	79%	4	
							9	パネル展・昔のくらし展等		
大項目Ⅱの総合評価(A~D)									A	
博物館コメント	常設展の入場者アンケートでは、非常に良かった及び良かったが86パーセントを占める。しかし、60代及び70代以上が入場者の過半数を占め、次いで10代が13パーセント、40代が11パーセントという順序である。逆に少ないのは、20代・30代・50代といった年齢層で、今後はこうした年代に対するPRの方策を考える必要がある。企画展アンケートでは、人と水との関わりを過去・現在・未来に向けて、どのように展示してあってわかりやすい、視点が面白い、など満足度は79パーセントと好評であった。しかし、一方では、テーマを広げすぎて散漫な印象に映った人もいた。今後は企画展のテーマや内容だけではなく、各単元の絞り込みも課題である。									
有識者コメント	企画展については、あまり欲張って一度にやろうとしないで、テーマを絞って、パート1、パート2、・・・というように連続の企画展としてやるのも一つの方法ではないか。									
Ⅲ	財源の確保	入場料	1	入場料収入	達成率	28年度実績	3,383,110円	4	A	
						前年度実績	3,502,960円			
		外部資金	2	外部資金の獲得	件数	28年度実績	1件	4		
						前年度実績	0件			
大項目Ⅲの総合評価(A~D)							A			
博物館コメント	年間の入場料収入は、昨年度(平成27年度)に比べて入館者が減ったため、3.42パーセント減少した。これは、昨年度は野田市内で8月にスタンプラリーがあり、入館者が大きく伸びたが、今年度(平成28年度)は、これがなかったため減少となった。企画展に係る外部資金については、今年度は採用になったが、これは企画展事業の趣旨やねらいが、日本海事科学振興財団の「海の学びミュージアムサポート」の趣旨やねらいと合致したためである。									
有識者コメント	今年度支援金を獲得できたことは良かった。支援金を出しているところは、宝くじ協会など、他にもある。今後はいろいろとところを検討してみてもよいのではないか。									

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
IV	広報活動の積極的な展開	広報情報発信	1	HP等の情報発信	アップ数	28年度実績	291回	4	A
					前年度実績	203回			
			2	HPでの利用状況	アクセス数	28年度実績	54,694件	4	
					前年度実績	50,505件			
			3	報道機関への情報発信	取材件数	28年度実績	16件	4	
					前年度実績	16件			
大項目IVの総合評価(A~D)							A		
博物館コメント	今年度(平成28年度)は、昨年度(平成27年度)よりもこまめにホームページをアップしたため、アップ数が増え、その分アクセス数も昨年度より増加した。								
有識者コメント	ホームページのアップ数が昨年度より増え、これに比例してアクセス数も伸びている。これは大変良いことである。今後もホームページのこまめなアップは続けていってほしい。								
V	学校及び地域(関係団体)との連携・協働	学校との連携	1	学校利用受入	学校数	28年度実績	11校	2	B
					前年度実績	19校			
			2	入館者数	28年度実績	590人	2		
					前年度実績	1361人			
			3	生徒・児童	入館者数	28年度実績	536人	2	
		前年度実績			1249人				
		4	博学連携(幼小中高への出前講座等)	学校数	28年度実績	4校	4		
				前年度実績	4校				
		5		利用者数	28年度実績	107人	4		
				前年度実績	117人				
地域関係団体との連携	6	団体数	28年度実績	84団体	2				
			前年度実績	140団体					
	7	連携・共催(大学、NPO等)	利用回数	28年度実績					
			前年度実績						
	8		利用者数	28年度実績	2470人	2			
前年度実績			5289人						
9	友の会活動	利用人数	28年度実績	77人	4				
		前年度実績	76人						
10	ボランティア活動	活動延人数	28年度実績	418人	4				
		前年度実績	347人						
大項目Vの総合評価(A~D)							B		
博物館コメント	今年度(平成28年度)は、昨年度(平成27年度)に比べて、天候の悪い日が多かったため、地域関係団体の利用が減少をした。学校の利用の減少については、訪問地域の変更や学校行事等の関係と思われる。長期的な推移を見たうえでないと正確なコメントは難しいが、当館単独だけではなく周辺地域の魅力も含めた広報活動の展開を考える必要がある。								
有識者コメント	学校団体や一般団体については、その属性や目的の把握に努めてもらいたい。どういう団体で、何が目的で、どこから来て、どこへ行くのかなど、団体の性格を把握しておくことが必要である。地域のイベントなどに館の事業を一部組み込んで実施してみてはどうか。例えばそのイベントに関連して「城下のイベント」をやるということで、博物館周辺の寺や神社に呼びかけて、関連した行事をやらしてもらおうなど考えてはどうか。								

分類	大項目	中項目	小項目				達成状況	総合評価	備考
			上段:達成値(H27) 下段:目標値(H27)]		値の説明	数値			
VI	教育・普及活動	来館状況	1	歴史講座	参加者数	28年度実績	100人	2	B
						前年度実績	178人		
			2	郷土食講座	参加者数	28年度実績	237人	4	
						前年度実績	241人		
			3	博物館セミナー	参加者数	28年度実績	151人	4	
						前年度実績	137人		
			4	城下を歩こう	参加者数	28年度実績	96人	2	
						前年度実績	132人		
		5	体験教室	河川敷のいきものがし	参加者数	28年度実績	15人	2	C
					前年度実績	27人			
		6	飛ばせ水ロケット	参加者数	28年度実績	14人	2		
					前年度実績	17人			
		7	野外講座(歴史散歩)	参加者数	28年度実績	26人	2	B	
					前年度実績	38人			
		8	歴史講座(企画展)	参加者数	28年度実績	28人	4	B	
					前年度実績	22人			
		総合的な満足度	講座	歴史講座	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	28年度実績	97%	4	A
28年度実績	91%					4			
28年度実績	76%					4			
12	城下を歩こう			満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	28年度実績	91%	4	A	
					28年度実績	79%	4		
14	飛ばせ水ロケット			満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	28年度実績	86%	4	A	
					28年度実績	96%	4		
16	歴史講座(企画展)	満足度「とても良かった」+「良かった」の割合	28年度実績	96%	4	A			
			28年度実績	96%	4				
17	相談件数(来館、メール、電話等)	利用件数	28年度実績	26件	4	A			
			前年度実績	6件					
大項目VIの総合評価(A~D)							B		
博物館コメント	今年度(平成28年度)は、「博物館セミナー」及び「歴史講座(企画展)」を除いては、昨年度(平成27年度)より参加者が減少した。広報については、ホームページをはじめ県や市の広報等昨年度並みに行ったが、教育普及事業については、毎年内容が変わる「博物館セミナー」及び「歴史講座(企画展)」以外は、前年度と同じ事業であり、初めての参加者にはよいが、何度も来ている人にとっては良い事業であっても「飽き」のようなものが出てきて、遠慮傾向が出てきているのかもしれない。講師(指導者)も高齢化しており、今後はこうした普及事業の見直しなども視野に入れて検討をしていく必要がある。								
有識者コメント	教育普及事業については、房総のむらの演目を参考にして、新たなものを考えるなり、可能なものはそのまま取り入れてもよいのではないかと。決して二番煎じにはならない。今後は、房総のむらと相互協力するような体制を考えてもよいのではないかと。								

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)]	値の説明				数値	
Ⅶ	人材育成と安全管理	実習研修	1	博物館実習	28年度実績	0人	1	B	希望者がなかった。	
					前年度実績	1人				
			2	教員等の研修	28年度実績	3人	4			
					前年度実績	0人				
			3	職場体験	28年度実績	5人	3			
					前年度実績	6人				
			4	インターンシップ	28年度実績	4人	4			
					前年度実績	2人				
		安全管理	5	研修会の開催	実施回数	28年度実績			/	A
						前年度実績				
			6	防災訓練実施等	実施回数	28年度実績	1回		4	
						前年度実績	1回			
大項目Ⅶの総合評価(A~D)						A				
博物館コメント	博物館実習については、希望者はいなかったが、教員研修・中学生の職場体験・高校生のインターンシップ等の機会を通じて、その後の当館の利用の促進につながるように、展示事業や普及事業等について説明をし、当館の博物館活動について理解をしてもらうようにした。									
有識者コメント	昨年度より、増えた減ったということではなく、希望がどれだけあって、それにどの程度応えられたかが、評価の対象である。今後とも継続してもらいたい。									

分類	大項目	中項目	小項目			達成状況	総合評価	備考		
			上段:達成値(H27)	下段:目標値(H27)	値の説明				数値	
Ⅷ	観光資源としての活用	観光連携	1	県外来館団体入込	28年度実績	67団体	4	A		
					前年度実績	52団体				
			2		28年度実績	2577人	4			
					前年度実績	1787人				
			3	外国人来館入込	28年度実績					
					前年度実績					
			4		28年度実績	381人	4			目視による
					前年度実績	312人				
大項目Ⅷの総合評価(A~D)						A				
博物館コメント	県外からの団体及び外国人の来館が、昨年度(平成27年度)に比べ若干増加している。これを即、圏央道境古河ICからつくば中央ICの開通の影響とすることはできない。開通したことによって境古河ICで下りずに通過してしまう車もあり、今後はどうやって引き寄せるかが課題である。また、個人の来館者については、交通機関のアクセスが悪く、自家用車での来館が大半を占め、バスの増便が図れるように当館の景観、周辺の施設や寺院・史跡等を観光スポットとして宣伝し、来場者を増やすように努める。									
有識者コメント	周辺の観光施設などとの連携体制が作れるとよい。外国人については、来館時にどこの国の人か書いてもらうようにすると、出身が把握できる。									
総合評価(A~D) 【各達成度の平均】						A				
総合評価と次年度への対策	<p>【総合評価】</p> <p>○来館者アンケートから、昨年度と同様に来館者の多くが「川に関わる歴史と文化」「関宿藩の歴史」を学ぶことを目的としていることが知られ、当館に望むことも、これらの展示をさらに充実させることが上位を占めている。また、普及事業についてもこれらに関係したものは、人気がある。こうしたことは、開館以来20年余りの間に蓄積されてきたものが定着したことを示していると考えられる。</p> <p>【次年度への対策】</p> <p>○今後は、展示を含めこれらの事業をマンネリ化しないように(飽きさせないように)どのように運営していくか(生かしていくか)が課題であり、併せて当館の弱い自然系などの分野を充実させていく方策も課題となる。</p> <p>○少ない職員数、限られた予算の中で、博物館事業を充実させていくためには、事業に対する全職員の共通理解と学芸課と庶務課が協働しながら運営をしていく体制で進めていきたい。</p>									

【博物館評価に係る有識者意見】

評価項目全体に係る意見	<p>中央博物館や大利根分館などは自然系も含めて展示を行っている。今後は、そうしたところとの貸し借りを前提にした展示を考えてもよいのではないかと。ホームページについては、よく頑張っている。今後も続けていってもらいたい。</p>
-------------	---

【博物館記入】

意見への対応	<p>自然系の展示については、写真パネルを用いた「パネル展」では実施している。館の性格や展示スペース、担当職員の専門性も考え合わせて検討していきたい。</p> <p>資料のデジタル化については、早急に検討し、毎年度目標を立てて少しずつでも進めていきたい。なお、返却した資料のデータについては削除作業を実施した。</p> <p>企画展については、準備を進めていく段階でボリュームが大きくなるようであれば、2回あるいは3回に分けるというようなことも考えたい。</p> <p>支援金については、毎年同じところから受けていると、どうしても展示内容に縛りがあるので、考えるのが難しくなってくる。やりたい展示がなかなかできないという傾向もある。今後は、他資金の開拓を行ってみたい。</p> <p>団体の利用については、属性や目的を把握できるような方法を考えたい。</p> <p>教育普及事業については、必要に応じて検討を行い、場合によっては房総のむらから協力を得るなど方策を考えたい。</p> <p>観光連携については、地域の情報収集に努め、連携の可能性や方法等について検討をしていきたい。</p>
--------	---